

水無みよ

22号

東地区地域づくり協議会々報
発行 平成29年9月1日
発行責任者 佐藤成孝
茗荷沢268番地1(東開発センター)
電話 025-779-3312

上流 高田から
廿日堰
岩の下堰
大桑原頭首工
門前川前堰
三用学校堰
雷新田堰
新開堰
九左工門堰
新田堰
大浦新田堰
田沢堰
久保田上堰
宮田堰
虫野頭首工
小池堰
下流 魚野川へ

15カ所の取水口

養鶏場「とっとこ村」脇で三用川に合流する中沢川は水無川と少しだが魚野川の水が注ぐ。合流地点の下に大浦新田堰があり取水、そこから下流は水がなくなることがめずらしくない。「水は上下の流れ」。用水の不便な虫野は今、土地改良の地権者とりまとめをしている。



米もスイカも川の恵み

三用川があって三用の農業は成り立つ。耕作季平成29年度より、毎日大和郷土地改良区の用水管理をしている宮崎健作さん(76)に日常を聞いた。

域の方から調整して頂いています。大桑原頭首工から取水した用水は高田木津醸造所裏のファームポンド〜谷地ファームポンド、その谷地へ補水するための山新ファームポンドと合わせ三用川左岸中上流の田んぼを潤します。別の系列で流れた水は硯川脇のファームポンドから前原一帯の畑作に使われます。

雷土のファームポンドは新開堰から取水されます。ここから自然流水、ポンプ圧送で三用川右岸下流の農業を担っています。

—大雨や渇水時の対応は

雷土のファームポンドが低く排水ゲート操作をしなければなりません。そうしないとポンプ室まで浸水してしまいます。それから、山新のファームポンドの入水を止めます、そうしないと周辺に水が溢れるからです。水系は違いますが小澤暁さん牛舎下流の除塵機も、これらはしょっちゅうです。だいたい雷と一緒に、バイク移動は怖いから。

渇水はもう譲り合うしかありません。後は地元の用水委員会がどうするかです。幸い昔のような「番水」は殆どありません。システムとして設備が良くなっているということでしょう。

—そう簡単ではない用水管理

—担当範囲も広いが、仕事としてはどうですか

宮崎健作さん
昭和15年生まれ。浦佐川原町。浦佐構造改善組合(現ウラコウ)、島田組などを経て用水管理をして9年目。水無川右岸を2人で担当、主任。



雪は水の源

—間もなく今季の用水シーズンが終わりです。用水事情はどうだったでしょうか。

雨が少なく作物栽培には悪かったかも知れませんが、渇水の心配がこれ程無い年はめずらしい。山の雪が多かったから。昨シーズンは小雪で、春耕期も夏もファームポンドは空からでした。何とかなっている限りあまり農家は気付かないけどね。雪の力は大きいですね。

—三用川と農業用水を考えたとき宮崎さんはどの施設や系統を主に使っていますか。

大桑原頭首工系列と雷土のファームポンドです。頭首工や取水堰の操作はしません。生活用水や既成田との兼ね合いがあるため、地(写真右上へ)

「土改の水番」と言われ、かなり気楽な仕事と思われていると思います。全体の流れ気候、止水弁の位置、給水バルブの構造、そう簡単な仕事ではないです。覚えようと日々思っても全体が分かるには数年掛かりました。意欲がなければ続きません。あっちを溢れさせなため、ここを閉め直接水無川へ流すなどそれなり分からなければやれません。いきなりすぐやれる仕事ではありません。

農家とのお付き合いも大切です。組織ですから、大事なことは「揚水機場の担当職員と話して下さい」となります。でもさっき話した大雨対応などは、雷土も、山新も近くの方がしてくれることがあります。あり難いことです。決まりきったやり方ではやっていけません。とにかく農家の皆さんとの対話が大切です。

—とくに具体的に感じていることは

給水栓バルブに草や木屑がつかえるとネジを緩め除こうとするでしょう危ないですね、相

当の水圧ですから外れると顔面を直撃します。遠慮せずに、私達に連絡下さい。それと地元の用水委員会がもっている止水栓バルブのハンドルです。鍵と同じですから何の作業をしたのか、しているのか、その後どう元通りにしたか、分かるようにしておいてもらいたいですね。

厳しい設備の更新

—今後農業水利はどうなるでしょうか

八色原開拓パイ事業、浦佐構造改善組合当時は、楽しかったしおもしろかったな。それから50年でしょう。かなりガタがきて当たり前。更新となると厳しいでしょうね。全額農家負担ではやれないし行政の財政も厳しいから。中心の稲作が厳しいですからね。

(8月19日 茗荷沢新田ファームポンド施設において=聞き手 関正太郎)

平成29年7月18日 魚沼市十日町地内で三用川左岸決壊。水に埋まった田んぼ(写真左上) 上流から虫野方面(同右)

魚沼地域振興局 地域整備部治水課 提供